

**令和5年度 全国学力・学習状況調査結果から読み取れる、
児童生徒や学校の状況**

調査人数 小学6年生 939名、中学3年生 975名

1 教科に関する調査結果

(1) 正答率一覧(単位%) (「正答率」は、満点を100点としたときの「点数」と同じです。)

校種	教科	年度	全国平均	県平均	石巻市平均	全国と市の差	県との差
小学校	国語	R5	67	65	64	-3	-1
		R4	66	62	62	-4	0
	算数	R5	63	58	57	-6	-1
		R4	63	58	57	-6	-1
中学校	国語	R5	70	68	64	-6	-4
		R4	69	68	66	-3	-2
	数学	R5	51	44	41	-10	-3
		R4	51	45	44	-7	-1
	英語	R5	46	39	36	-10	-3
		H31	56	53	48	-8	-5

注1) 全国、県共に公立学校の平均です。

注2) 県平均は仙台市を除いた数値です。

注3) 県平均、石巻市平均は、整数値で示されており、全国平均の数値は、小数第1位を四捨五入したものです。

2 教科に関する調査結果から ○：よさ △：課題

〔国語〕

○小学校は、全国との乖離が減少している傾向がある。

○小・中学校ともに、全国より無解答率が低かった。

〔算数・数学〕

○小学校は、全国との乖離は昨年度と同様だった。

○小学校は、全国より無解答率が低かった。

〔英語〕 中学校のみ 平成31年度との比較

△○全国との乖離は大きいものの、宮城県との乖離は減少した。

〔全体〕

△小・中学校とも宮城県及び全国の平均を下回る結果だった。

△算数、数学、英語は、基本的な問題についても誤答が多かった。

△記述式の問題では、条件に合わせた記述や解き方の説明を十分にできない傾向が見られた。

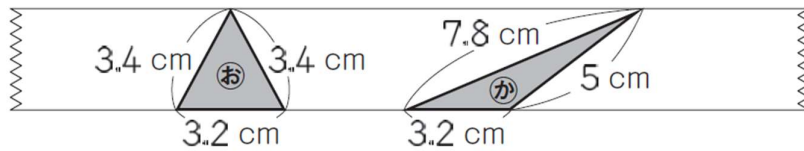
<全国との乖離が特に大きかった問題>

小学校算数

テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。

※ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを問われている。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊟と㊦の2つの三角形をつくります。



上の㊟と㊦の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1** ㊟の面積のほうが大きい。
- 2** ㊦の面積のほうが大きい。
- 3** ㊟と㊦の面積は等しい。
- 4** ㊟と㊦の面積は、このままでは比べることができない。

中学校数学

1961年～1975年の四分位範囲を求める。

※ 四分位範囲の意味を理解しているかどうかを問われている。

7 イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日おうようびといいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのかが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。

そして、二人は次のような表にまとめました。

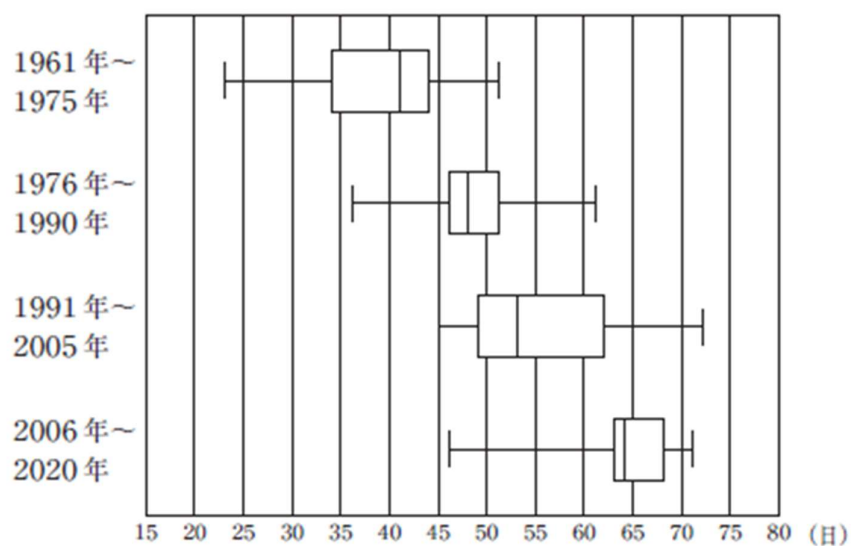
各年の黄葉日

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
⋮	⋮	⋮
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。

黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。

中学校英語

図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する。

※ 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかを問われている。

7 次の英文は、しおりさんが英語の授業で「町の図書館」について書いたものです。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Libraries today are more creative than in the past. The library in our town is more creative, too. We can do a lot of things there. We not only read books and watch DVDs at the library, but also enjoy events like book talks, puppet shows, and workshops about making picture books.

There are many kinds of spaces, too. (), people can read books on sofas, on *tatami* mats or in the library cafeteria. They can relax and read books anywhere. They can use small rooms for studying, meeting, or working.

Our creative library can connect people. One of my friends likes making picture books now after he joined a workshop at the library. He sometimes asks the library staff questions about making picture books by email even now. Also, while some kids are reading together on the *tatami* mats, their parents can become friends with each other.

I hope all of you visit our creative library in the near future.

(注) creative: 創造的な

not only ~, but also ...: ~だけでなく、...も

puppet: 人形 workshop: ワークショップ

connect: ~をつなぐ while: ~する間

(1) 英文中の () に当てはまる語 (句) として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 Like this
- 2 For example
- 3 Then
- 4 Second

3 児童生徒質問紙から ○：よさ △：課題

(1) 学習意欲の向上について

- 「国語の勉強は好きですか。」の設問は肯定的な回答の割合が、全国平均を上回った。
- 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」は、肯定的な回答の割合が全国平均を上回った。
- △「算数・数学の勉強は好きですか。」「英語の勉強は好きですか。」は、全国平均を下回った。
- △「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」は、全国平均を下回った。

(2) 授業改善について

- 「国語の授業の内容はよく分かりますか。」の設問は肯定的な回答の割合が、全国平均を上回った。
- 「これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」では、週1回以上と回答した割合が全国を上回った。
- △「算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。」「英語の授業の内容はよく分かりますか。」の設問は肯定的な回答の割合が、全国平均を下回った。

(3) 生活習慣について

- △朝食を毎日食べている割合、家庭学習の時間と読書の時間については、全国平均を下回った。

4 学校質問紙から ○：よさ △：課題

(1) 学習意欲の向上について

- 「学校生活の中で、一人一人のよい点や可能性をみつけ、（伝えるなど）積極的に評価したか」は、全国平均を上回った。

(2) 授業改善について

- 「児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。」は、ほぼ毎日と回答した割合が全国平均を大幅に上回った。
- △「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させましたか。」は、小中ともに全国平均を下回った。

(3) 生活習慣について

- 「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか。」は、全国平均を上回った。
- 「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。」は、全国平均を上回った。

令和5年度全国学力・学習状況調査結果・分析に基づき、「石巻市の学力向上」を展開する中で、下記の取組を推進する。

石巻市教育委員会では、石巻市学力向上プラン、学力向上マネジメント支援事業の実施等により、学力向上対策に力を入れている。

今後も、学力向上推進委員及び市内全小中学校の教職員や保護者と課題意識の共有を図りながら、学力向上に向けた教育活動の改善と充実を目指していくとともに、以下の点について力を入れていく。

(1) 学習意欲の向上

児童質問紙から「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思うか」「学校生活の中で、一人一人のよい点や可能性を見つけ、(伝えるなど)積極的に評価したか」という質問項目に関しては、全国平均を上回っていることから、児童生徒と教師の関係は良好であることが伺える。「算数(数学)の勉強は好きか」「英語の勉強は好きか」については、好きである割合が全国平均を下回っている。「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」についても低い。

学習意欲が向上するよう、次の3点を促す。

- ① 全国学力・学習状況調査の結果を学校全体で分析・共有
- ② 分析を基に結果を個の指導に生かし「できた」という達成感を実感させる取組
- ③ 自ら学ぶことができるタブレットドリル等の有効活用

(2) 授業力の向上

ICTの活用は全国より高い傾向にある項目が多いものの、思考を要する学習活動での活用は十分に進んでいるとは言えない。また、国語を除き「授業の内容がよく分かる」と答えている割合が全国よりも低い。話し合いをさせたり、自分の考えなどを発表したりすることが十分にできていないことが伺え、思考する活動が十分にできているとは言えない。そのため、調査結果からは、記述式の問題において、正答率が低く、全国との乖離も大きい傾向がある。

以上を踏まえ、今後一層「ICTを活用した個別最適な学び」と、『協同学習』を基本とした、対話的な学習」を推進する。具体的には、多様な学習場面でのICT活用を促す。全教科・領域を通して意図的に「書く活動」を行っていく。加えて、以下を市全体として取り組んでいく。

- ・国語においては、「文学的文章」「説明的文章」を扱う単元の授業改善に力を入れる。文章の要約等、書く活動を1時間の学習の中に位置付ける。
- ・算数(数学)においては、特に、領域「A 数と計算(中学校では「A 数と式」)」「B 図形」を大切に指導しつつ、知識及び技能の資質・能力を高めることに重きを置く授業、基礎・基本を大切にする授業を徹底する。また、適用問題を解く時間を十分に確保し、その際、タブレットドリル等を有効活用する。
- ・英語においては、知識及び技能の資質・能力を高めることに重きを置く授業を推進する。生徒同士で書いた文章を読み合う、話し合う活動を意識的に行う。

(3) 基本的な生活習慣の確立

朝食を毎日食べている割合、家庭学習の時間と読書の時間については、全国を下回った。中学校では、家庭での学習方法の具体例を挙げて指導している割合も低い。三者面談で学習や生活習慣について情報共有・連携を図るだけでなく、中学校区における連携も一層推進していく。これまで、整備してきた家庭生活の決まりだけではなく、読書や家庭学習についても小中で情報共有し、基本的な生活習慣の確立を進める。コミュニティ・スクールでも話題にしていくことで、地域ぐるみで児童生徒の成長を支えていく。